びわ湖放送（BBC）

海と日本PROJECT in 滋賀県

一般社団法人 海と日本プロジェクトin滋賀県

海洋ごみ対策アクションのハードルを下げ「最初の一歩」に！

滋賀県は「琵琶湖を海は繋がっている」をスローガンに、街や河川のごみ対策を訴求し、アクションに繋げる活動を行いました。４カ月に渡ってキャラクターが海洋ごみ対策を訴える「びわ湖１周行脚」や、児童が主体的に調査・報告を行う「プラごみ調査隊」などで県民の意識向上を図っています。また、小さなところからでもごみ対策に参加できる仕掛けづくりに注力し、毎日の昼食で脱プラできるリユース容器「リパコ」の展開や、清掃活動のハードルを下げる「拾い箱」ネットワークのキャンペーンなどを実施し、県民の海洋ごみ対策アクションの最初の一歩に繋がることを狙います。

2024年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI、Ｂリーグ連携事業など

野洲のおっさん びわ湖１周ごみ拾い行脚

概要 県内の認知度９４％の人気キャラがびわ湖１周２００キロを実際に歩きながら海洋ごみ削減を呼びかけ。

目的 ローカルキャラクターが訴求することで海洋ごみ問題へのジブンゴト化を図る。

アピールポイント 身体を張った活動に多くの県民・企業が共感し、ファンとなってお応援してくれています。

効果 指標とした数字：
応援に来てくれた人12,480人
検証方法：
カードを配布した実数
見られた成果：
清掃アクション参加者の増加

プラごみ調査隊

概要 琵琶湖岸の砂に含まれるマイクロプラスチックの量を調査する小学生向けのイベント。３会場で実施。

目的 児童が主体的に調査・観察を行うことで海洋ごみ問題への強い関心を起こす。

アピールポイント 専門家監修のもと測量方法を統一し、３会場の調査結果を参加者が県へ報告しました。

効果 指標とした数字：
参加児童８３人、満足度95.5%
検証方法：
保護者への事後アンケート
見られた成果：
次の展開に意欲を見せる子が多数

リパコの展開

概要 地域の弁当販売店９店舗と連携し、リユース容器をシェアする「リパコ」システムを構築

目的 毎日の昼食で発生するプラごみを削減。合わせて利用者の意識向上に繋げる。

アピールポイント 地域を巻き込んだ事業で、今後の持続可能な取り組み。小さなことでも毎日続ければ大きな成果に。

効果 指標とした数字：
連携店舗９店舗。
１０月～１２月までの実証実験のため、利用回数やアンケートは測定前。

拾い箱キャンペーン

概要 清掃活動のごみを回収する拾い箱を自治体と連携して展開。これまでの４カ所で推進キャンペーンを実施。

目的 寄贈した自治体とのつながりを強め、機会を提供する。全県で盛り上げる雰囲気を醸成する。

アピールポイント ４カ所で一斉に訴求することで、利用者も連携先も盛り上げることに成功しました。

効果 指標とした数字：
キャンペーン連携４自治体
連動した清掃イベント５回
見られた成果：
常設でない拾い箱も活用され、機会創出につながった。

海ごみゼロウィーク（清掃活動）

清掃活動参加人数 59375人　**箇所数** 37箇所

アピールポイント 滋賀県循環社会推進課や、滋賀県労働者福祉協議会などと連携し、全県をあげて海ごみゼロに取り組みました。海ごみPR大使の野洲のおっさんを中心に、応援団体もそれぞれで清掃活動に取り組んでいます。

メディア露出

メディア露出本数 TV放送82本　新聞3記事

アピールポイント ごみ拾い行脚の様子は連日放送（１回１０分７６話放送）
事業の様子や清掃活動はびわ湖放送をはじめ、地域メディアにも取り上げられました。

2024年度の課題とこれからの展望

これまでの活動ＰＲを通して、「子どもたちにプラスチックの学習をさせたい」「拾い箱を設置してくれて活動がしやすくなった」などの問い合わせが増えました。まだまだ海洋ごみ対策アクションのハードルが高く、学びの受け皿が少ない実態が浮かび上がります。意識向上に向けたＰＲや地域団体の活動のハブとしての役割と並行して、県民の環境活動へのアクションへの支援ができるような体制構築を図っていきます。